



代表者 谷 健二 教授

本研究により解決される課題

伴侶動物（犬と猫）獣医外科学の実践

技術の内容

- ・ 犬猫の不動化
- ・ 細胞培養
- ・ 分子生物学的手法
- ・ 中型動物を用いたモデル作製
- ・ 動脈カテーテル治療
- ・ 伴侶動物獣医外科臨床

技術の独自性・優位性

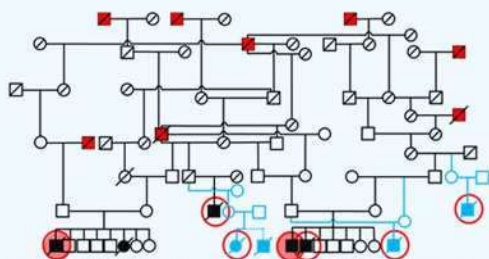
人医療で行われている診断・治療法について犬猫で再現できるグループは少ないこと。

現在得られているデータの概要

ダルメシアンに好発する銅関連性肝炎の遺伝形式は常染色体劣性遺伝であることが示唆されていることから、エクソーム解析を実施している。
・ 悪性黒色腫罹患犬における酸化ストレスについて調査したところ、多くの症例で酸化ストレスが悪化し、抗酸化ストレス力が低下していることが明らかになった。

業績例

リサーチマップを参照してください
<https://researchmap.jp/read0122944>



ダルメシアンの銅関連性肝炎

悪性黒色腫罹患犬におけるストレスバランス (n=33)

